東武鉄道株式会社の事業適応計画のポイント

2026年1月30日

・東武鉄道グループは、2050年CO2排出量実質ゼロを目指しており、基盤事業である鉄道事業においては、2030年度にCO2排出量約50％削減（2013年度比）を見込んでいる。
・今回、省エネ車両の導入にあたって、VVVFインバータ非搭載車両から、VVVFインバータへの置き換え、且つ半導体素子にSiCを採用することで、脱炭素実現に向けた省エネ車両の導入をより一層促進し、企業成長及び持続可能な社会の両立を目指していく。

＜事業適応計画の概要＞

1. 事業適応計画の実施期間
2026年4月～2029年3月

2. 生産性向上目標
炭素生産性を20.4％向上させる。

3. 前向きな取組の内容
森林公園検修区において、VVVFインバータ非搭載車両からVVVFインバータの半導体素子にSiCを採用した車両への置き換えを行うことで、炭素生産性を改善させる。

4. 支援措置
税制措置（カーボンニュートラルに向けた投資促進税制）

＜取組の内容のイメージ＞

森林公園検修区　車両置き換え

【置換前】9000系：非VVVF

【置換前】10000系：非VVVF

【置換後】90000系：VVVF（SiC素子採用）